

世田谷区立世田谷中学校  
校長 前田 浩 様

世田谷区立世田谷中学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 後藤 彰夫

## 令和4年度 学校関係者評価報告書

本年度の学校関係者評価について、以下のようにまとめたので報告します。

### 1 評価対象ごとの評価結果の分析

肯定的な評価（A とても思う、B 思う）の割合が8割程度を目標達成の判断目安とし、協議した。肯定的な回答がやや低い項目（8割以下）であっても、実態と学校の取組状況を総合的に判断した。

#### 〔1〕生徒

学習指導、生活指導、学校行事については、ほぼ8割以上の肯定的な評価であり、特段の課題はないと思われる。中でも、

- 「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」 (A+B 91.9%)
- 「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」 (A+B 91.9%)
- 「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」 (A+B 91.3%)
- 「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」 (A+B 90.4%)
- 「先生たちは、生徒にいていねいに指導している」 (A+B 90.0%)
- 「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」 (A+B 83.7% 前年度比+15.8%)

などの評価が特に高く、充実した授業、生徒への先生の支援がなされていることが窺える。

また、キャリア教育に関しては、

- 「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」 (A+B 83.8% 前年度比+11.3%)
- 「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」 (A+B 76.2% 前年度比+7.8%)
- 「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」 (A+B 75.6% 前年度比+5.5%)

3項目全てで、前年度より評価が高まっている。そして、評価が大きく高まった項目として

- 「タブレットを活用し、以前よりまとめたり、表現する力が高まっていると思う」 (A+B 79.2% 前年度比+16.9%)

があり、タブレット端末の効果的な使い方がなされていると考えられる。

一方で、否定的な評価（C あまり思わない、D 思わない）が高い項目や回答できない（E 分からない）との評価が目につくものとして、

- 「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある」 (C+D 55.1%、E 14.8%)
- 「私は、家庭で宿題やeラーニングなどで学習をしている」 (C+D 37.1%、E 10.2%)

があり、この2項目は前年度と同じく評価が低く、改善を要すると考えられる。

部活動に関しては、評価が低い訳では無いが、

- 「部活動は、楽しい」 (A+B 76.2% E 14.2%)
- 「部活動は、達成感がある」 (A+B 76.5% E 14.8%)

(E 分からない)の数値が他の項目に比べ高い結果となっているので、生徒への接し方・指導の仕方に工夫の余地を残すと考えられる。

#### 〔2〕保護者

500通のアンケートを配布し、全学年で106通の回答があった。回収率は21.2%である。

今年度から二次元コードによる回答に変更となり、学校としては締め切り日前に回答の依頼の督促を行ったということだが、前年度までに比べ回収率が極端に低くなっている。

前年度に比べ、評価の変動（+、-）の大きい項目が多く認められる点は気にかかることであり、今回は前年度評価と今年度評価の比較は行わないこととした。

肯定的な評価（A とても思う、B 思う）の割合が8割を超えた項目は、学校行事は3項目全て、

- 「学校行事は、子どもにとって楽しい」 (A+B 88.7%)
- 「学校行事は、子どもにとって達成感がある」 (A+B 85.8%)

「本校は、子どもの意欲を大切にしている」 (A+B 85.9%)  
 教職員については  
 「本校は、丁寧に指導している」 (A+B 80.2%)  
 学校からの情報提供では2項目、  
 「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」 (A+B 90.5%)  
 「本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる」 (A+B 81.2%)  
 その他で、

「本校の教育活動は、子どもの成長につながる」 (A+B 86.8%)  
 「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」 (A+B 84.9%)  
 「本校は、安全な学校づくりを進めている」 (A+B 84.9%)  
 4 1 評価項目中、9項目と数の上では少ないが、学校が生徒の安全に配慮をし、情報をきちんと伝える中で、生徒たちが楽しく過ごしていることを保護者が高く評価をしていることが窺える。

一方で、高い評価が得られていない項目は、  
 「本校は、近隣の(幼稚園)小・中学校で構成する「学び舎」の(幼稚園)小学校へ行ったり、(幼児)小学生が来たりする機会がある」 (A+B 39.6%)  
 「「学び舎」の区立(幼稚園)小学校について情報が提供されている」 (A+B 38.7%)  
 「生徒たちは、自ら進んでボランティア活動にかかわろうとしている」 (A+B 45.3%)  
 この学び舎や地域にかかわる点は、引き続きコロナ禍に深く関わり、保護者の学校へ来る機会の減少や地域行事の非開催によるものと考えられる。  
 「子どもは、家庭で宿題やeラーニングなどで学習している」 (A+B 46.2%)  
 は、生徒の評価と同様の低い評価となっている。

### 〔3〕地域

肯定的な評価(Aとても思う、B思う)の割合が8割を超えた項目は  
 「学校の重点目標が明確である」 (A+B 100%)  
 「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」 (A+B 100%)  
 「学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる」 (A+B 94.8%)  
 「学校行事の内容は充実している」 (A+B 89.5%)  
 「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」 (A+B 84.2%)  
 「生徒たちは、自ら進んでボランティア活動にかかわろうとしている」 (A+B 84.2%)

特にボランティア活動は前年度比+30.3%であり、生徒たちが校外の活動に動き出したことを好意的に見守ってくださっている地域の方の気持ちの表れとみられると考える。

「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」 (E分からない 36.8%)  
 「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」 (E 36.8%)  
 は、保護者の同傾向設問と同じく(E分からない)の評価が30%を越えており、地域・保護者ともに高い評価とは言えない。学校として、広報活動・情報提供の工夫・改善を更に進めること等を通して、協議会・委員会の方針・活動を周知させることを望む。

## 2 学校への提言

### (1) 新たな学びへの取り組み

ICTを活用した学びに関して、学校内での活用は図られていることが窺われるが、家庭での活用は依然十分とは言えない。今後の学びでは、家庭との協力が今まで以上に必要となると考えられる。学校には、家庭とともにより良い学び・新たな学びをつくり上げていく取り組みを求める。

### (2) より正確な状況把握

保護者アンケートの回収率は明らかに低い。より正確な保護者の思い、考えを把握するためのアンケートとなるよう回収率を上げる取り組みを求める。

## 3 総合所見

自己評価報告書及び学校関係者評価等によると、新校長の下、学校は様々な活動に取り組み、一定の成果を挙げてきたといえる。山積する様々な教育課題、新たな課題に対して、地域運営学校としての機能を最大限に生かし、学校としての考え方や取組方法について最善の方策を生み出し、実践を願いたい。この学校に関わる生徒、保護者、地域及び教職員等が、共に自信と誇りのもてる世田谷中学校となるよう、全身全霊で教育活動に取り組んでもらいたい。

令和4年度 世田谷区立世田谷中学校 学校関係者評価委員会			
委員長：後藤彰夫	委員：木村美紀	委員：由良孝江	
委員：遠藤麻紀子	委員：室田久子	事務局：新妻弘樹	